

Ⅱ 成果の公表

1. 普及に移した、または普及の参考となる技術情報

令和元年度 第1回農業・農村の課題調整会議

令和元年8月22日(木) 農業研究開発センター 交流・サロン棟

1) 普及に移した技術課題

	課題名	担当
1	高温による開花変動の少ない8月咲小ギク品種「春日Y2」の育成	育種科
2	大豆「サチユタカA1号」の奨励品種採用	育種科
3	彩りドレッシングの開発	加工科
4	土着天敵を活用した露地ナスの減農薬害虫防除体系の改良	環境科

2) 普及の参考となる技術・情報

	課題名	担当
1	花粉媒介昆虫の違いがイチゴの果実表面の生菌数に及ぼす影響	育種科
2	専用装置を用いたヒロズキンバエの羽化促進	育種科
3	ミョウガ栽培における栽植密度と系統の早晩性が花蕾収量に及ぼす影響	育種科
4	鉢物・花壇苗の品質評価試験における底面給水資材の利用	育種科
5	米粒食味計RLTA10Bを用いた小麦「ふくはるか」の子実タンパク質含有率の推定	育種科
6	結崎ネブカのネギアザミウマの薬剤感受性	環境科
7	施設スイカを加害するアザミウマ類に対するスワルスキーカブリダニ製剤の防除効果	環境科
8	防除体系の違いによるハダニ薬剤感受性低下抑止への影響	環境科
9	CSNVによるウイルス病の宿主範囲と症状	環境科
10	トマト葉かび病に対する各種薬剤の防除効果	環境科
11	河川における水稲用殺虫剤フェノプカルブ(BPMC)の濃度推移	環境科
12	ヤマトウキ短期育苗における葉収量	果樹・薬草研究センター
13	ヤマトウキの葉収穫部位が根収量に及ぼす影響	果樹・薬草研究センター
14	ドラムドライヤーによる新品種「せいめい」、「はると34」粉末茶製造方法	大和茶研究センター
15	銅剤のみによる炭疽病防除効果	大和茶研究センター
16	銅剤の2回散布が製茶品質に及ぼす影響	大和茶研究センター
17	炭疽病に対するフルアジナムの防除効果	大和茶研究センター
18	黒大豆エダマメの9月どり作型の確立	大和野菜研究センター

2. 農業研究開発センター成果発表会

令和2年2月21日(金) 農業研究開発センター交流・サロン棟

テーマ:「スマート農業の推進につながる試験研究・技術開発」
(農業水産振興課との共催で、「スマート農業企業展示」を同時開催)

1) 基調講演

「スマート農業の現場実装に向けた取組と今後の展開方向」
農林水産省生産局技術普及課 課長補佐 新保貴裕 氏

2) 事例報告

「先端技術導入による中山間地域の特産品スマート化の展望」
近畿大学農学部環境管理学科 松野 裕 教授

3) 成果の紹介(口頭発表)

発表者		課題名
果樹・薬草研究センター	杉村 輝彦	ドローンの利用によるカキ病害虫の早期発見と防除の省力化
育種科	厚見 治之	イチゴの高設栽培における複合環境制御装置(YoshiMax)の利用
育種科	矢奥 泰章	イチゴの収穫・管理支援用運搬台車の開発
大和野菜研究センター	安藤 正明	女性に優しい農業機械の開発

4) ポスターセッション

1	イチゴの新品種と有望系統
2	良日持ち性ダリア品種の選抜
3	白さび病抵抗性小ギク品種の探索
4	ダイズ「サチユタカA1号」の奨励品種採用
5	小麦栽培における省力追肥技術の開発
6	奈良県産のカキとイチゴ「古都華」の栄養成分等分析
7	トマト葉かび病における新レースの出現と薬剤感受性の調査
8	河川における水稲用農薬の濃度推移
9	カキの加温栽培におけるペレットボイラーの実用性評価
10	霜害による製茶品質の低下とその軽減方策
11	イチゴの無病苗の供給
12	ヤマトウキに続く新規薬草品目の特産化を目指して

5) スマート農業関連の管理システム・機械等の展示 参加企業

三晃精機(株)	ラピスセミコンダクタ(株)	(株) 東海近畿クボタ
日本電気(株)	(株)NTTドコモ	(株)ほくつう

6) ポスター交流

・研究統合本部参加研究機関
(産業振興総合センター、保健研究センター、薬事研究センター、畜産技術センター、森林技術センター)

・磯城野高校

3. 刊行物

【奈良県農業研究開発センター研究報告 第51号 2020.3】

[原著]

杉山高世・森下星子・福田和明・辻章宏	難裂莢性ダイズ‘サチユタカA1号’の奈良県における生育、収量および品質特性	51:1-7(2020)
北條雅也・石川亜希	片平あかねのアントシアニンと緑茶のクロロフィルを含むドレッシングの保存性	51:9-19(2020)
井村岳男・太田優大・山口貴大	採種スイカにおける天敵製剤によるアザミウマ類の防除	51:21-24(2020)
山口貴大・井村岳男・今村剛士	奈良県のイチゴにおけるナミハダニ黄緑型の薬剤感受性と抵抗性リスク解析について	51:25-30(2020)

[短報]

虎太有里・印田清秀・仲 照史	鉢物の品質評価試験における底面給水資材の利用	51:31-37(2020)
米田健一・浅尾浩史	ヤマトトウキ (Angelica acutiloba Kitagawa) 短期育苗における簡易被覆法の検討	51:38-42(2020)
大谷正孝・西原正和・浅尾浩史	ボウフウの育苗におけるペーパーポット®の利用	51:43-47(2020)

[研究ノート]

岡山彩子	オランダの農福連携の取組について	51:48-56(2020)
井村岳男・山口貴大・今村剛士・竹中勲・松村美小夜・國本佳範	発生予察定点圃場に設置した性フェロモントラップによる野菜・花き類を加害する主要なヤガ科害虫の誘殺消長の記録について ①ハスモンヨトウ	51:57-60(2020)
山口貴大・井村岳男・今村剛士・竹中勲・松村美小夜・國本佳範	発生予察定点圃場に設置した性フェロモントラップによる野菜・花き類を加害する主要なヤガ科害虫の誘殺消長の記録について ②ヨトウガ	51:61-63(2020)
山口貴大・井村岳男・今村剛士・竹中勲・松村美小夜・國本佳範	発生予察定点圃場に設置した性フェロモントラップによる野菜・花き類を加害する主要なヤガ科害虫の誘殺消長の記録について ③オオタバコガ	51:64-67(2020)
井村岳男・山口貴大・今村剛士・竹中勲・松村美小夜・國本佳範	発生予察定点圃場に設置した性フェロモントラップによる野菜・花き類を加害する主要なヤガ科害虫の誘殺消長の記録について ④シロイチモジヨトウ	51:68-71(2020)
佐野太郎・竹谷 勝	奈良県農業研究開発センターで保有する遺伝資源を管理するデータベースの開発	51:72-76(2020)

【農業研究開発センターニュース第156号 2019.6】

8月咲き小ギク新品種‘春日の星’の育成
ダイズ品種‘サチユタカA1号’の奨励品種採用
イチゴうどんこ病に対する各種薬剤の防除効果
カキ‘甲州百目’の大苗定植における初期着果管理
河川における水稲用殺虫剤フェノブカルブ (BPMC) の濃度推移
黒大豆エダマメの9月どり作型の確立

【農業研究開発センターニュース第157号 2019.12】

イチゴ新品種‘珠姫(たまひめ)’
片平あかねと大和茶のドレッシングの開発
ヤマトトウキ短期育苗における最適な育苗密度の検討
霜害による製茶品質の低下とその軽減方策
カノコソウの栽培について
イベントを開催しました・お知らせ

4. 知的財産権の保有状況

特許権等の名称	発明考案者	出願年月日	登録年月日 登録番号	共同開発 機関
柿タンニンの抽出方法、及びこの方法で抽出された柿タンニン	濱崎貞弘	H16. 3. 24	H22. 4. 23 特許第4500078号	
切り花収穫機	仲 照史 角川由加 小山裕三	H21. 10. 13	H26. 11. 7 特許第5640270号	農業・食品産業技術総合 研究機構 みのる産業(株)
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した 圧力スイング法による園芸用施設への 二酸化炭素供給装置	西本登志 堀川大輔 後藤公美 佐野太郎 仲 照史	H22. 7. 9	H26. 7. 18 特許第5578469号	産業技術総合研究所 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)
植物生育環境調節装置	西本登志 堀川大輔 穴戸拓樹 佐野太郎	H25. 5. 2	H27. 4. 10 特許第5725627号	大阪府立環境農林水産 総合研究所 鳥取大学 農業・食品産業技術総合 研究機構 大日本プラスチック (株)
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した 園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 仲 照史 廣岡健司 佐野太郎	(H23. 9. 13) 国内優先権 H24. 9. 12	H29. 7. 28 特許第6179915号	産業技術総合研究所 農業・食品産業技術総合 研究機構 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)

品種名	育成者権者	登録年月日	登録番号	備考
アスカルビー	奈良県	H12. 2. 4	7651号	R2. 2. 4失効
古都華	奈良県	H23. 10. 5	21164号	
春日の紅	奈良県	H25. 3. 6	22340号	
千都の舞	奈良県	H28. 3. 1	24776号	
千都の風	奈良県	H28. 3. 7	24876号	
千都の恋	奈良県	H29. 3. 1	25768号	
千都の粋	奈良県	H29. 3. 1	25769号	
春日の鈴音	奈良県	H29. 3. 28	25914号	
HC3-6-10-11	奈良県	H29. 4. 25	25973号	
春日W1	奈良県	H30. 10. 10	27042号	
春日Y1	奈良県	H30. 10. 10	27043号	
春日Y2	奈良県	R2. 3. 9	27845号	
珠姫	奈良県	出願R1. 9. 9	出願番号34159号	

5. 令和元年度 研究成果情報 (2020.3)

No.	推進部会	成果情報名	科名	研究者
1	野菜	果実が大きいイチゴの新品種「奈良9号」	育種科	矢奥泰章、東井君枝、 西本登志、ほか
2	花き	鉢物の品質評価試験における底面給水資材の利用	育種科	虎太有里、仲照史、印 田清秀
3	作物	大豆「サチユタカA1号」の奨励品種採用	育種科	杉山高世、森下星子、 福田和明、辻章宏

6. 学会・研究会誌への投稿等

著者名	タイトル	種類	学会・研究会誌名	巻号：頁	発表年月
井村岳男	露地ナスに発生するヒメハナカメムシ類に対する各種殺虫剤の影響	原著	関西病虫害研究会報	61:49-53	2019.5
Shunsuke Asano, Yoshihiko Hirayama, Isao Takenaka, Terufumi Naka	Occurrence of Tomato spotted wilt virus (TSWV), seasonal abundance of thrips vectors, and evaluation of TSWV control measures in dahlia fields	原著	Ann. Rept. Kansai Pl. Prot.	61:69-74	2019.5
Shunsuke Asano, Yoshihiko Hirayama	Seasonal effect on infection with <i>Colletotrichum horii</i> causing anthracnose in persimmon twigs and the relation between its prevalence on twigs and occurrence in fruit	原著	Ann. Rept. Kansai Pl. Prot.	61:75-78	2019.5
Kandai Yoshida, Shunsuke Asano	Occurrence of chrysanthemum downy mildew in Nara prefecture and its control with thermotherapy and fungicide	原著	Ann. Rept. Kansai Pl. Prot.	61:79-84	2019.5
Shunsuke Asano, Kandai Yoshida	Using voice input for improving the efficiency of surveying plant disease severity	原著	Ann. Rept. Kansai Pl. Prot.	61:121-123	2019.5
Kandai Yoshida, Shunsuke Asano	Efficacy of fungicides, and resistance among cultivars, in the control of strawberry powdery mildew	原著	Ann. Rept. Kansai Pl. Prot.	61:125-128	2019.5
井村岳男	奈良県のネギから採集したネギアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	短報	関西病虫害研究会報	61:149-150	2019.5
Shunsuke Asano, Kandai Yoshida, Terufumi Naka, Yoshihiko Hirayama	The distribution and nucleotide sequences of chrysanthemum stunt viroid in dahlia fields in Japan and the effect of its infection on the growth of dahlias	原著	Eur J Plant Pathol	(オンライン版のみ)	2019.12
米田健一・浅尾浩史	薬用作物トウキ (<i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa) における葉の収穫が根の収量に及ぼす影響	原著	新近畿中国四国農業研究	3:8-18	2020.3

7. 学会・研究会、シンポジウム等での発表・講演

学会・研究会(口頭発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
井村岳男	露地ナスに発生するヒメハナカメムシ類に対する各種殺虫剤の影響	第101回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会報61:49-53	2019. 5. 17
浅野峻介・芳田侃大	RNA-seqによるウイルス・ウィロイドの網羅的検出	第101回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会報61:174	2019. 5. 17
芳田侃大・浅野峻介	キク白さび病の温湯処理における葉焼け症状の時期別の発生と殺菌剤との併用効果	第101回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会報61:174	2019. 5. 17
西本登志	食用種子かぼちゃ「ストライプペポ」種子の保存条件が脂質酸化に及ぼす影響	日本家政学会	研究発表要旨集：132	2019. 5. 26
山口貴大・井村岳男	奈良県における次世代バンカー資材キットによる施設イチゴ栽培のアブラムシ類防除	第24回農林害虫防除研究会沖縄大会	講演要旨：31	2019. 7. 5
西川学	牛糞堆肥等に含まれる除草剤クロピラリド濃度の実態	近畿土壤肥料研究協議会第38回研究会	研究会講演要旨集：22-23	2019. 8. 2
岡山彩子	オランダの農福連携のとりくみ	近中四問題別研究会 営農推進部会	部会資料	2019. 8. 8
米田祥二・佐野太郎	子葉色を利用した果皮が紫色を呈するトウガラシ個体の幼苗選抜	令和元年度園芸学会近畿支部奈良大会	園芸学研究19(別1):526	2019. 8. 30
佐野太郎・木矢博之・米田祥二	ポット栽培によるスイカの採種の検討	令和元年度園芸学会近畿支部奈良大会	園芸学研究19(別1):526	2019. 8. 30
虎太有里・辻本直樹・印田清秀・西本登志	流通時の光と温度ならびにエチレン気浴処理がシクラメンの葉の黄変に及ぼす影響	令和元年度園芸学会秋季大会	園芸学研究18(別2):271	2019. 9. 15
平山喜彦・芳田侃大	ベゴニア、ジニアおよびセンニチコウでのキク萎えそウイルスの感染とその伝染源	令和元年度植物病理学会関西支部会	講演要旨：49	2019. 9. 19
芳田侃大・平山喜彦	バジルからの <i>Phytophthium helicoides</i> の分離と同定	令和元年度植物病理学会関西支部会	講演要旨：45	2019. 9. 20
北條雅也	Manufacturing process for new post fermented persimmon leaf tea	The International Society for Southeast Asian Agricultural Sciences	ISSAAS 2019 Book of Abstracts:33	2019. 10. 18
西本登志・矢奥泰章	ゆで調理時におけるオクラの機能性および嗜好性の変化と果実長との関係	日本家政学会関西支部	講演要旨：3	2019. 10. 26
井村岳男・山口貴大	露地ナスの天敵保護栽培で発生するタバコノミハムシの薬剤感受性と発生生態に関する若干の知見	第29回天敵利用研究会群馬大会	講演要旨：22	2019. 11. 13
津田映子・西川学	鶏糞堆肥を利用した有機質液肥利用技術の検討	近畿土壤肥料研究協議会第40回総会	総会資料	2019. 11. 22
杉村輝彦	カキのフタモンマダラメイガの防除効果に及ぼすフルベンジアミド剤散布の影響	令和元年度フタモンマダラメイガ防除試験成績検討会	成績検討会資料：13	2020. 2. 3
井村岳男	天敵利用における化学農薬の併用について考える～露地ナスの土着天敵保護利用から～	第45回日本農薬学会シンポジウム	講演要旨：50	2019. 3. 10
井村岳男	ダイコンハムシに対する各種殺虫剤の殺虫効果	第64回日本応用動物昆虫学会愛知大会	講演要旨：32	2020. 3. 16
山口貴大・小林甫	奈良県の促成イチゴ栽培で発生するヒラズハナアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	第64回日本応用動物昆虫学会愛知大会	講演要旨：31	2020. 3. 16
芳田侃大・平山喜彦	昆虫病原性糸状菌製剤によるイチゴうどんこ病の発病抑制に関わる防御関連遺伝子の発現解析	令和2年度植物病理学会本大会	講演要旨：103	2020. 3. 19
平山喜彦・芳田侃大	奈良県内のイチゴ原種苗生産で実施しているイチゴ炭疫病のPCR検査の実用性	令和2年度植物病理学会本大会	講演要旨：103	2020. 3. 19
佐野太郎・米田祥二・神川諭・安藤正明	奈良県農業研究開発センターが収集した未熟果果皮にアントシアニンを蓄積する在来トウガラシの特性評価	令和2年度園芸学会春季大会	園芸学研究第19(別1):155	2020. 3. 21

学会・研究会(ポスター発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
厚見治之・浅尾 浩史・西本登 志・矢奥泰章・ 浅野峻介・嶋岡 龍平	花粉媒介昆虫の違いがイチゴの果実表面の生 菌数に及ぼす影響	園芸学会令和元年度秋季大会	園芸学研究18 (別2):366	2019.9.16
杉村輝彦・辻本 誠幸・林良考・ 上田直也・市川 胤記	カキ‘甲州百目’大苗定植後の摘蕾の有無が 着蕾数と収量に及ぼす影響	園芸学会令和元年度秋季大会	園芸学研究18 (別2):342	2019.9.16
米田健一	トウキにおける芽くり作業効率化の検討	日本生薬学会第66回年会	日本生薬学会第 66回年会講演要 旨集:124	2019.9.23
米田健一	コンクリートミキサーを利用したトウキ湯も み作業省力化の検討	薬用植物栽培研究会第2回研究総 会	薬用植物栽培研 究会第2回研究総 会要旨集:44	2019.11.23

8. 著書・雑誌・新聞・資料等への掲載、イベント展示、報道発表、テレビ・ラジオ報道

(著書・雑誌)

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
杉村輝彦	4～6月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第304号:26-29	2019. 4
平山喜彦・杉村輝彦・浅野峻介	植物防疫講座 病害編-16 炭疽病菌による病害の発生生態と防除	植物防疫	一社) 日本植物防疫協会	第73巻4号：43-48	2019. 4. 1
市川胤記	果樹園管理のポイント カキ	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol174(5):95-96	2019. 5
上田直也	果樹園管理のポイント カキ	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol174(7):114-115	2019. 7
上田直也	柿の新品種のとりのくみ	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第305号:4	2019. 7
杉村輝彦	7～9月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第305号:6	2019. 7
上田直也	果樹園管理のポイント カキ	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol174(9):89-90	2019. 9
井村岳男	奈良県における土着天敵ヒメハナカメムシ類に対する殺虫剤の圃場影響調査に基づく露地ナスの天敵保護体系の改良	植物防疫	一社) 日本植物防疫協会	第73巻9号：545-548	2019. 9. 1
井村岳男	促成イチゴにおけるカブリダニ製剤利用のポイント	なら植防ニュース	一社) 奈良県植物防疫協会	第113号：3	2019. 10
杉村輝彦	10～12月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第306号:6	2019. 10
高松元紀	ポット栽培したカキの果実表面の凹みと果肉内褐変に及ぼす高温と乾燥の影響	施設と園芸	日本施設園芸協会	No. 187:26	2019. 10
平山喜彦	イチゴ炭疽病の伝染源としての雑草の評価	植物防疫	一社) 日本植物防疫協会	第73巻10号：21-26	2019. 10. 1
上田直也	果樹園管理のポイント カキ	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol174(11):96-97	2019. 11
米田健一	トウキのマルチ栽培における籾殻被覆による植穴雑草抑制技術の検討	薬用植物研究	薬用植物栽培研究会	41巻2号:53-59	2019. 12. 22
杉村輝彦	1～3月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第307号:6	2020. 1
平山喜彦	令和元年度東海・近畿地区植物防疫事業検討会報告	なら植防ニュース	一社) 奈良県植物防疫協会	第114号：3	2020. 1
谷河明日香	霜害による製茶品質の低下とその軽減方策	茶やまと	奈良県茶生産青年協議会	第68号	2020. 2. 20

(イベント展示)

担当科・研究センター等	タイトル・テーマ・見出しなど	イベント名	発表年月日
各課・科・研究センター	食と健康に関する研究成果の発表 漢方のメッカ推進協議会 講演会 研究に関わるグルメ試食	研究分野統合本部研究成 果発表会 「食と健康」 フォーラム	2019. 10. 18
育種科、研究企画推進課	ミス菊・二輪菊を紹介	奈良まほろば館イベント	2019. 10. 19-24
研究企画推進課	柿の販売、センター等のPR	第9回さくらい農・商工 ふれあいフェスタ	2019. 11. 9
育種科、果樹・薬草研究セ ンター、大和野菜研究セ ンター、研究企画推進課	研究成果の事業化、新たな共同研究シーズの発見	アグリビジネス創出フェ ア2019	2019. 11. 20-22
研究開発部、研究企画推 進課	業務概要（研究計画・成果）を紹介	NAISTキャリア フォーラム2020	2019. 12. 19
各科・研究センター	研究成果の発表・成果発表会の紹介(ポスターによる)	県庁屋上展示	2020. 2. 3-6

(報道発表)

担当	タイトル	発表年月日
研究企画推進課	農業研究開発センターニュース156号を発行しました	2019. 7. 10
研究企画推進課	農業研究開発センター公開デー開催!	2019. 10. 4
育種科・研究企画推進課	奈良まほろば館でミス菊・二輪菊を紹介	2019. 10. 7
果樹・薬草研究センター	「果樹・薬草研究センター開放デー」開催	2019. 11. 6
研究企画推進課	センターニュース157号を発行しました	2020. 1. 14
研究企画推進課	農業研究開発センター成果発表会・スマート農業企業展示を開催	2020. 1. 28

(新聞)

テーマ	タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	掲載日
井村岳男	春夏野菜主要病害虫防除のポイント 虫害	全国農業新聞	2019. 4. 5
小ギク育種	小ギク新品種「春日の星」育成	農業共済新聞	2019. 8. 7
井村岳男	秋冬野菜主要病害虫防除のポイント 虫害	全国農業新聞	2019. 8. 9
柿	品種や効用 魅力を紹介-奈良県果樹・薬草研究セ ンター 柿博物館-	毎日新聞	2019. 10. 18
井村岳男	施設園芸作物の病害虫防除 虫害	日本農業新聞	2019. 10. 24
平山喜彦	施設園芸作物の病害虫防除 病害	日本農業新聞	2019. 10. 24
大和茶	「茶聖」が作る手もみ茶(奈良市月ヶ瀬) - うま味香 る極細の葉	日本経済新聞	2019. 12. 16
ソルガムによる土壌還元 消毒	緑肥アラカルト	日本種苗新聞	2019. 9. 1

(奈良新聞「農を楽しむ」)

担当者	タイトル	所属	掲載日
福田和明	パン用小麦について	育種科	2019. 4. 7
岡山彩子	農福連携とは	研究企画推進課	2019. 5. 5
厚見治之	果菜類の受粉	育種科	2019. 6. 2
大谷正孝	薬用樹キハダについて	大和野菜研究センター	2019. 7. 7
井村岳男	アブラムシ	環境科	2019. 8. 11
中村剛士	オウトウについて	果樹・薬草研究センター	2019. 9. 8
虎太有里	シクラメンの栽培	育種科	2019. 10. 13
石川亜希	柿の加工品	加工科	2019. 11. 10
谷河明日香	お茶の品評会	大和茶研究センター	2019. 12. 8
安藤正明	大和寒熟ほうれん草	大和野菜研究センター	2020. 1. 12
森下星子	奈良県的小麦栽培	育種科	2020. 2. 9
平山喜彦	ジャガイモの病気	環境科	2020. 3. 8

(テレビ・ラジオ)

発表者	番組・タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	発表年月日
矢奥泰章	イチゴ品種候補「奈良9号」について（番組名：ゆうドキッ！）	奈良テレビ放送	2019. 4. 12
矢奥泰章	イチゴ品種候補「奈良9号」について（番組名：Newsミント！）	毎日放送	2019. 4. 29
矢奥泰章	イチゴ品種候補「奈良9号」について（番組名：キャスト）	ABCテレビ	2019. 5. 7
矢奥泰章	イチゴ品種候補「奈良9号」について（番組名：武田和歌子のびたっと。）	ABCラジオ	2019. 5. 9
岡山彩子	農業研究開発センター公開デーの開催について	ならどっとFM	2019. 10. 23
中村剛士・高松元紀	奈良の柿について（番組名：奈良イチ研究所）	近鉄ケーブルネット	2019. 11. 5
高松元紀	果樹・薬草研究センター開放デーについて（番組名：県政HOTインフォメーション）	ならどっとFM	2019. 11. 13
中村剛士・高松元紀	果樹・薬草研究センター開放デーについて（番組名：ならナビイベントナビ）	NHK奈良	2019. 11. 15
中村剛士	柿博物館について（番組名：多田しげおの気分爽快朝からP.O.N）	CBCラジオ	2019. 11. 20
瀬川賢正	『茶道発祥の地 奈良』	Vietnam Television (協力:奈良テレビ)	2020. 2. 4
厚見治之	イチゴ新品種候補「珠姫」について（番組名：せんとくん通信）	奈良テレビ放送	2020. 2. 5
西本登志	奈良県のイチゴ生産と研究の取り組み（番組名：報道ランナー）	関西テレビ	2020. 2. 20
西本登志	イチゴ特集（番組名：報道ランナー全力投球!!妹尾和夫です。サンデー）	ABCラジオ	2020. 2. 23
矢奥泰章	イチゴのビーフライの利用について（番組名：す・またん&ZIP）	読売テレビ	2020. 3. 25

9. 令和元年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

令和2年2月7日開催 農業研究開発センター交流・サロン棟

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき、令和元年度に実施した、7つの大課題、25の中課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

評価委員氏名	
上田 味哥子	奈良県指導農業士会会長
江口 充	近畿大学 農学部長
鶴木 千里	前奈良県消費生活審議会委員
前田 伸一	奈良県指導農業士会副会長
杉山 孝	奈良県農林部長

各研究課題の評価(評価委員の平均値で記載)

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の安定供給	地域ブランド力を高める薬用作物生産技術の開発	抽苔しにくい優良品種の育成	4.2	3.2	3.6	11.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・優良品種を作ることで増収増益につながると思う。 ・ヤマトトウキの収量増大は重要なテーマだと思う。可能であれば抽苔性だけではなく、生薬としての成分含量に基づく視点でのスクリーニングがあった方が良いかと思う。 				
		実需者の求める高品質な薬用作物生産技術の開発	4.0	3.2	3.2	10.4
		<ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアル（高品質生産向け）を作るのに必要な研究である。 ・薬効成分に影響を与えない栽培技術の確立（農薬散布、施肥等）に期待する。 				
	単味製剤原料向けトウキの省力栽培技術の開発	4.2	3.4	3.2	10.8	
	<ul style="list-style-type: none"> ・単味製剤原料のための省力栽培技術が確立されると非常に有用であると考えている。密植栽培は有効である。ここでも成分分析を行われた方が良いのではないかと思います。 					
宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	4.0	3.2	3.8	11.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・海外に頼っている漢方の材料は高値になっていると聞いている。国内産が作れたらとても良いと思う。 ・宇陀地域で薬草栽培がさかんになることを期待する。 ・県がしっかりリードし、出口となる製薬メーカーの満足度を上げていく中で技術力の向上ができるのではないのでしょうか。 				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
優良品種 の育成	奈良オリジナルの 優良品種の育成	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用品種の育成	4.8	4.2	4.2	13.2
		<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県では新規就農者がイチゴ栽培を希望する人が多いので、ブランド化の為に新品種は大事である。 ・イチゴのブランド力を強化する研究は奈良県としてぜひ継続的に取り組んでいくべき内容と思う。珠姫のように、良い品種が育成できた時はどんどんプレスリリースし、ブランド力を強化されるべきかと思う。 				
		需要期に安定して開花する小ギクや特色ある奈良ブランド菊の新品種の育成	5.0	4.4	4.2	13.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・菊も年々新しい品種が出てきているように思う。他産地に負けないような品種作りは大事である。お盆や、お彼岸は菊の売れる時なので、その時期に咲かせられるのは良いと思う。 ・イチゴと同様に小ギクも奈良県のブランド力をアピールできる重要な作物である。無側枝系の品種は農家の作業負担を減らし、8月咲のキクは農家にとって大きな収入源となる。今後の成果を大いに期待したいところである。 				
		新たな高品質甘柿品種の育成	4.8	3.2	3.6	11.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・県の特産品としての柿は重要品である。ただ、柿が品種として安定して作れるようになるには年数を要すると思う。継続して作って欲しいと思う。 ・和歌山県に次いで全国2位の柿生産量を誇る奈良県としては、研究成果を大いにアピールしていきたいところである。ただ、交配系統による研究は年月がかかる。 				
	奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.4	4.2	4.0	12.6	
<ul style="list-style-type: none"> ・海外での日本酒に対する注目度は上がっていると聞く。奈良県のお酒を作って、輸出できるようになればいいと思う。 ・清酒発祥の地である奈良県としては取り組んでおきたい研究テーマである。奈良県オリジナル品種を用いた奈良の日本酒の銘柄が増えることを楽しみにしている。 ・この研究が進んで、実用化になれば新しい奈良ブランドになる。大きく期待したい。 						
優良品種 の育成	遺伝資源の保存と 活用	奈良に歴史にゆかりのある遺伝資源の保存と活用	3.6	3.6	3.8	11.2
		<ul style="list-style-type: none"> ・細かい作業であると思うが、大切な事業である。いろいろな作物を守るとともに、新しい品種が出来れば新しい展開があると思う。 ・ジーンバンク事業の重要性を否定するものではない。ただ、継続することが極めて重要なうえにコストのかかる事業ですから、そのコスト面をよく考えて取り組んでいく必要があるかと思う。 				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計	
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均		
評価委員の意見							
加工商品の開発と加工技術の研究	奈良の特産品を用いたオリジナル加工品の開発	渋柿を原料とする糖蜜漬けの製造技術の開発	4.0	4.0	4.0	12.0	
		<ul style="list-style-type: none"> ・県産の柿を使った加工品はアピールが大きいと思われる。農業者や加工業者にとっても活用できるのが良いと思う。 ・民間レベルでは難しい研究なので、奈良県としてしっかりリードして欲しい。 					
		柿葉を利用した後発酵茶の開発	4.0	3.6	3.2	10.8	
		<ul style="list-style-type: none"> ・柿の葉寿司は日本全国に知れ渡っていることから、柿の葉のさらなる活用法を探っていくことは大いに意味があると思う。ただ、柿の葉の発酵茶が文句なしに美味しいのであれば特に問題はないのですが、そうでないのであれば、やはり柿の葉の発酵茶の「効能」を明確に打ち出すための取り組みが重要になると思う。 					
	加工適性を高める栽培技術の開発	素麺やパンに適した新たな小麦品種の選抜	4.0	4.0	3.8	11.8	
		<ul style="list-style-type: none"> ・麺やパンに向く小麦の生産は各地域でも取り組んでいるように聞いている。素麺に適した小麦ができればより宣伝効果が上がるのではないのでしょうか。 ・奈良県産の小麦をアピールするためには仕方に工夫が必要である。奈良県産小麦を使った三輪そうめんは分かり易いと思う。 					
		ワインに適したブドウ品種の果実品質研究	4.0	3.2	3.2	10.4	
		<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県産のワインは夢があっていいと思う。ストーリー性もあり、需要はあると思う。 ・ワイナリーのない奈良県での取り組みということで、非常に挑戦的な研究テーマと言える。研究の進め方自体は既存のワイン用ブドウをスクリーニングするという手法なので現実的であり、一定の成果は得られるとは思う。 					
	高品質に繋がる生産技術の開発	機能性を向上させる生産技術の開発	大和野菜の機能性を向上させる生産技術の開発	4.2	3.4	3.2	10.8
			<ul style="list-style-type: none"> ・とても大事な研究です。各地に同じような品目の生産があるので、独自の機能成分が少しでもあればいいのと思う。 ・大和野菜の機能成分がうまく販売にいかされ、奈良県産の農産物の生産拡大につながることを期待する。 				
輸出向け生産技術の開発		輸出需要向け茶生産技術の開発	4.6	4.0	3.4	12.0	
<ul style="list-style-type: none"> ・海外輸出はとても良いことだと思う。農家がこの技術をうまく取り込んでいってくれるかが課題かもしれない。 ・新たな販路を海外へとの考えは、非常に良いと思う。 							

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計					
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均						
評価委員の意見											
安定生産技術の開発	環境変動に対応した安定生産技術の開発	吸湿剤を使って低コストに施設内の温湿度を調整するシステムの開発	4.2	3.4	3.6	11.2					
		<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病は温度の低下に伴う結露が原因になることが多いので、成功すれば有用な技術になると思う。 ・出来るだけ早く農家に導入されるよう研究を前に進めて下さい。 									
		遺伝子診断技術によるキク、トマトなどの重要病害診断技術の開発	4.2	4.2	4.2	12.6					
		<ul style="list-style-type: none"> ・より早く病害の発生を見つけられ防除が出来れば、必要以上に農薬等を使わなくてよくなると思う。 ・農家にとっても興味深い研究であり、情報を早く教えてほしい。 									
		計画出荷に不可欠なキクの開花予測技術の開発	5.0	3.6	4.2	12.8					
<ul style="list-style-type: none"> ・キク切り花生産は、彼岸や盆の数日間というピンポイントで出荷する必要がある。従って、その年の開花予測は非常に重要である。この技術が開発されれば大いにキク生産に貢献すると思う。 ・メッシュ気象情報を利用してキクの開花予測を行うのは面白い試みである。模擬試験で7割程度の精度ということですが、これは画像解析としては低すぎる。今後、更に精度を上げる必要があると思う。 											
省力化技術の開発	生産者に優しい生産技術の開発	脚立を使わないカキの低木栽培技術の開発	4.4	3.4	3.8	11.6					
		<ul style="list-style-type: none"> ・低木栽培は良いと思うが、収穫量や味にどのような影響があるのかわからないのかまで追求して欲しい。 ・脚立を使わないという目標は具体的で良いと思う。 ・脚立を使わないことにより作業性が上がり、面積の拡大及び経営の向上ができる。 									
		障害者が活躍できる「農業」成立条件の提示	4.6	3.8	3.6	12.0					
		<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の働く場に農業という選択があっても良いとは思いますが、障害者は一人一人の個性が違うので、しっかりとしたマッチングが必要である。福祉側の人の農業への理解がないとむずかしく、受け入れ農家の環境も大事である。 ・農福連携は現在注目される分野であり、方法論を確立しておくことに意義はある。農作業ガイドの作成も有効であろうと思う。ただ、障害者と一言で言っても様々なケースがあり、実際に応用するとなると相当にハードルが高いことも認識しておく必要があると思う。 									
<table border="1"> <tr> <td>女性に優しい農業機械の開発</td> <td>4.6</td> <td>3.6</td> <td>3.4</td> <td>11.6</td> </tr> </table>							女性に優しい農業機械の開発	4.6	3.6	3.4	11.6
女性に優しい農業機械の開発	4.6	3.6	3.4	11.6							
<ul style="list-style-type: none"> ・体に負担の少ない機械はいいと思うが、現時点では単価が高すぎる。 ・費用面の負担を考えると、どの程度の割合の農業経営者が導入を検討されるのか疑問である。 ・農業機械の開発は女性に限らず有用だと思う。開発された農業機械を使うとどれだけ作業効率が上がったのか、数値化して評価しておく方が説得力があると思う。 											

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
環境保全 型農業技 術の開発	環境に優しい 生産技術の開発	天敵を利用した防除体系の安定化	4.4	4.2	4.0	12.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・天敵の利用は有効であると思う。天敵を使った時の防除をどうすればいいのかわかりたい。 ・天敵の利用は重要な研究である。県内に普及できるようなマニュアル化ができれば良いと思う。 ・少ない農薬で栽培することで、有利販売にも効果があるのではないのでしょうか。 				
		土壌微生物による土壌病害防除技術の開発	4.2	2.8	2.8	9.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・どんな作物の土壌病害でも有効なのか、どの病害に対してどの土壌菌が有効なのか研究を進めて欲しい。 ・土壌病害の防除は非常に難しい課題である。微生物を用いた土壌消毒が現実的に使える技術になるか否かについては否定的である。 ・安定生産を行うためにも必要な研究である。 				
	有機農業に活用 できる技術の開発	鶏糞堆肥を用いた養液土耕栽培技術の開発	3.4	1.4	1.2	6.0
		<ul style="list-style-type: none"> ・鶏糞の処理には堆肥化する方法が良いのですが、大腸菌の発生は困る。 ・やめるのは簡単であり、問題を解決するのも技術ではないのでしょうか。 				
土壌改良に活用 できる技術の開発	水田転換圃場の土壌改良技術の研究	4.8	3.2	3.2	11.2	
	<ul style="list-style-type: none"> ・暗渠があれば有効であるのがわかる。個人ですべての圃場に暗渠をするのは資金面で大変である。 ・農家指導のための基本データの収集と具体的な改善策の提案ができるという点において有用な研究といえる。 					

10. 共同研究・受託研究(外部資金研究)の実施状況

研究課題名	共同研究機関	委託事業 (資金) 名	委託機関 (契約先)	担当科・ 研究センター	研究 期間
キクウイルス性矮化病の罹病性検定技術の開発と抵抗性品種の選抜	農研機構野花研、宮城県、群馬県、秋田県ほか	実需ニーズの高い新系統及び低コスト栽培技術の開発 (農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構野花研	環境科・育種科	H27～R1
日持ち性等に優れた性質を持つ新規有望品種の育成	農研機構野花研、秋田県、高知県	実需ニーズの高い新系統及び低コスト栽培技術の開発 (農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構野花研	育種科	H27～R1
多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発 (ヤマトトウキの雑草管理軽労化技術の開発)	農研機構中央農研(株)キューホー	多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発 (農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構中央農研	大和野菜研究センター	H27～R1
漢方薬原料の地域ブランド化を目指した高収益複合経営モデルの開発	農研機構西日本農研、医薬健康栄研、岩手県、三重県、山口県	薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発 (農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構西日本農研	果樹・薬草研究センター	H28～R2
イチゴの育種素材の検討	—	育成系統評価試験(イチゴ)	農林水産省→農研機構野花研	育種科	H23～
茶樹の新規育成系統における産地適性の検討	—	茶育種研究に係る系統適応性・特性検定試験	農林水産省→農研機構果茶研	大和茶研究センター	H27～
農地管理実態調査	—	農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	農林水産省近畿農政局	環境科	H25～
微生物殺虫剤を用いた野菜重要病害虫のデュアルコントロール技術の開発	農研機構野花研、岐阜県、長野県、三重県、アリストライフサイエンスほか	イノベーション創出強化研究推進事業 (農水省) 発展融合ステージ	農林水産省→農研機構野花研	環境科	H29～R1
低コスト・強靱化を実現する建設足場資材を利用した園芸用ハウスの開発	農研機構西日本農研、岡山大学、広島県、島根県、静岡県、和歌山県、香川県、(株)果実堂	革新的技術開発・緊急展開事業 (うち経営体強化プロジェクト)	生研センター→農研機構西日本農研	育種科	H29～R1
鉢花・花壇苗の日持ち性向上技術の開発、品質評価基準の作成 (花き日持ち保証に対応した鉢花等の品質管理技術の改善と実証)	農研機構野花研ほか	花き日持ち性向上対策実証事業 (国産花きイノベーション推進事業のうち)	農林水産省→国産花き日持ち性向上推進協議会	育種科	R1
ダイズ品質・収量の空間変動を是正し実需者のニーズに応える可変管理の実証	京都大学、石川県立大学、山口県	科学研究費助成事業	(独)日本学術振興会→京都大学	育種科	H29～R1
傾斜地における安全作業をサポートする電動式・移動式作業台車兼運搬車の開発	三晃精機(株)奈良高専	イノベーション強化事業 (農水省) 開発研究ステージ	農林水産省→三晃精機(株)	大和野菜研究センター	H30～R2
ドローンの利用によるカキ傾斜地における防除の省力化	農研機構果茶研、鹿児島県、愛媛県、和歌山県、三重県、静岡県、エンルート、丸山製作所、エスコ、NEC、各県のJAや生産者	ドローンやセンシング技術を活用した果樹の病害虫防除管理効率化技術の開発 (農水省戦略プロ)	農林水産省→農研機構果茶研	果樹・薬草研究センター	H30～R4
遺伝資源データベースの整備と公開	農研機構遺伝資源セほか	海外植物遺伝資源の民間等への提供促進 (農水省戦略プロ)	農林水産省→農研機構遺伝資源センター	大和野菜研究センター	R1～4